

千すじの黒髪

海鳴り

11

道を説く君

47

虎の鐵幹

77

白芙蓉

97

恋の味

133

蛇頭の髪

173

灰の中の釘

231

あとがき

282

花衣ぬぐやまつわる……

序章

287

第一章 虚子嫌ひ かな女嫌ひ（久女伝説の謎）

307

——虚子嫌ひかな女嫌ひの单帯

第二章 碧き潮（常夏おとめ）

326

——常夏の碧き潮あびわがそだつ

第三章 煙都は冥し（小倉へ）

343

——目の下の煙都は冥し鯉鱖

第四章 花曇り（自分に賭ける）

358

——争ひやすくなれる夫婦や花曇り

第五章 生くる道わかず（ひとり病む秋）

388

——個性まげて生くる道わかずホ句の秋

第六章 ノラともならず（美しい女弟子）

416

——足袋つぐやノラともならず教師妻

第七章 夕顔の襷(俳句にかえる)

——夕顔やひらきかゝりて襷深く

442

第八章 山ほととぎすほしいまま(自由と栄光)

——銚して山ほととぎすほしいまま

471

第九章 無憂華(「花衣」創刊)

——無憂華の木蔭はいづこ仏生会

504

第十章 玉の帯(短冊事件)

——うらゝかや斎き祀れる瓊の帯

540

第十一章 行手いそがむ(序文懇願)

——磯菜摘む行手いそがむいざ子ども

569

第十二章 春の鶴(国子の手紙)

——盆に盛る春菜淡し鶴料理る

591

第十三章 木の実もおちず(同人除名)

——喜べど木の実もおちず鐘涼し

625

第十四章 芽ぐむもの(久女変幻)

——土濡れて久女の庭に芽ぐむもの

658

第十五章 金色の雲（虚子・輞梅）

——鶴舞ふや日は金色の雲を得て

終章

あとがき

参考資料文献

解説 田辺聖子

解題Ⅰ 浦西和彦

解題Ⅱ 菅 聡子

676

697

702

705

709

723

729